

三十九編

三十九編

甘泉

文庫

~13
3877
20





豪傑兒雷也譚三十九編

甘泉堂板

上



大蛇丸

一 西

牛一
と談小同気同病相憐と六頁ある
武大蛇丸も白露の偶たること



見よ百の三十九

3877



志心也

三十九

種まき

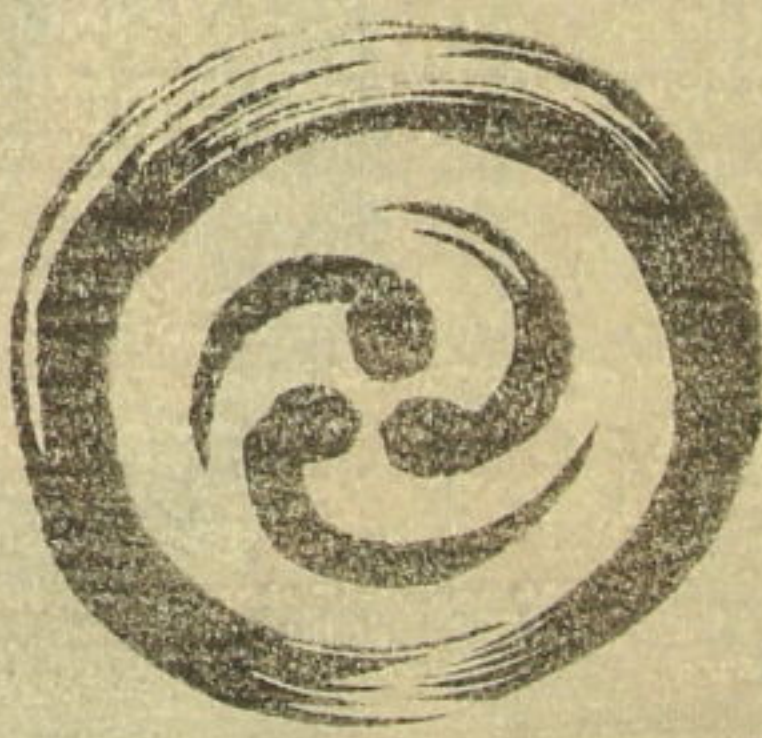
きり

し

きり

し

市三



あつちやあや
あつちやあや
あつちやあや

新遊妓白露



古遊君岸河太夫



白露本身の遠洲撥か池
の大蛇はそ周馬と暮を二
駿府弥勤街の色界よその身を
洗ると是や因地の高聖が弥勤
の出世をまろみ符合を然ハ
の色も遠り大蛇丸か
寺とありて毒を醞して大火
坑の天を焼んとする性何り

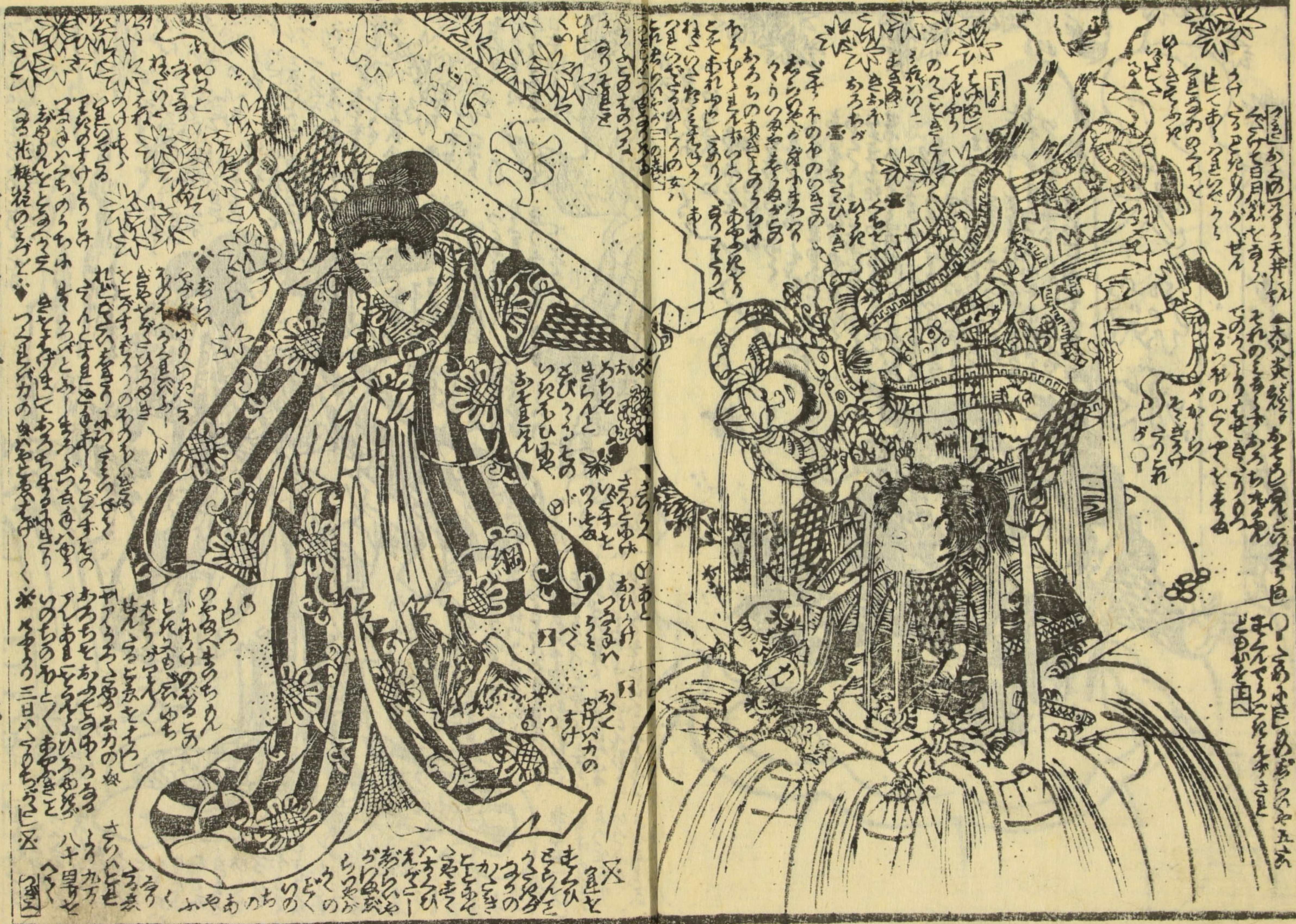
天恣はと假名の夾通詞
 帯へびとりの蚊屋うらと多
 素より設るるあやむらねど
 對画の趣向に二品を得
 たるも生々奇異なるも



鉤子戀情の鶏卵酒兒雷天下小鞞軒蛇がふるぬの蝦蟆と睨めハ
 蛙蟪眼前に出ると唐の揚烟が五言絶句と越後おんけに翻訳一
 たる這兒雷也の柳史乃所要奥議を開て視せ稟さん聖書と
 壁小藏とつ科斗の文字乃と書籍其故更に手足と漆
 て蝦蟆と羽るものよ大標首小雷と遣少科斗よく雷の鳴
 と聞て尾落然と足生ト蛙と変ると云詞も蝦蟆と兒雷也
 に帰るるの放然と深意、左も右もれ吾等が於玉枝子
 と使へ此身と極揚らとて柳下一頭の家部流とあふ柳の枝
 小躍騰り小野の道風と驚一傘乃蛇の目らち確うせんと
 蛙蟪半尺筆のころせと亡師の遺稿と拙序を加ぬ

文久二稔
 壬戌初春

柳水亭種清記



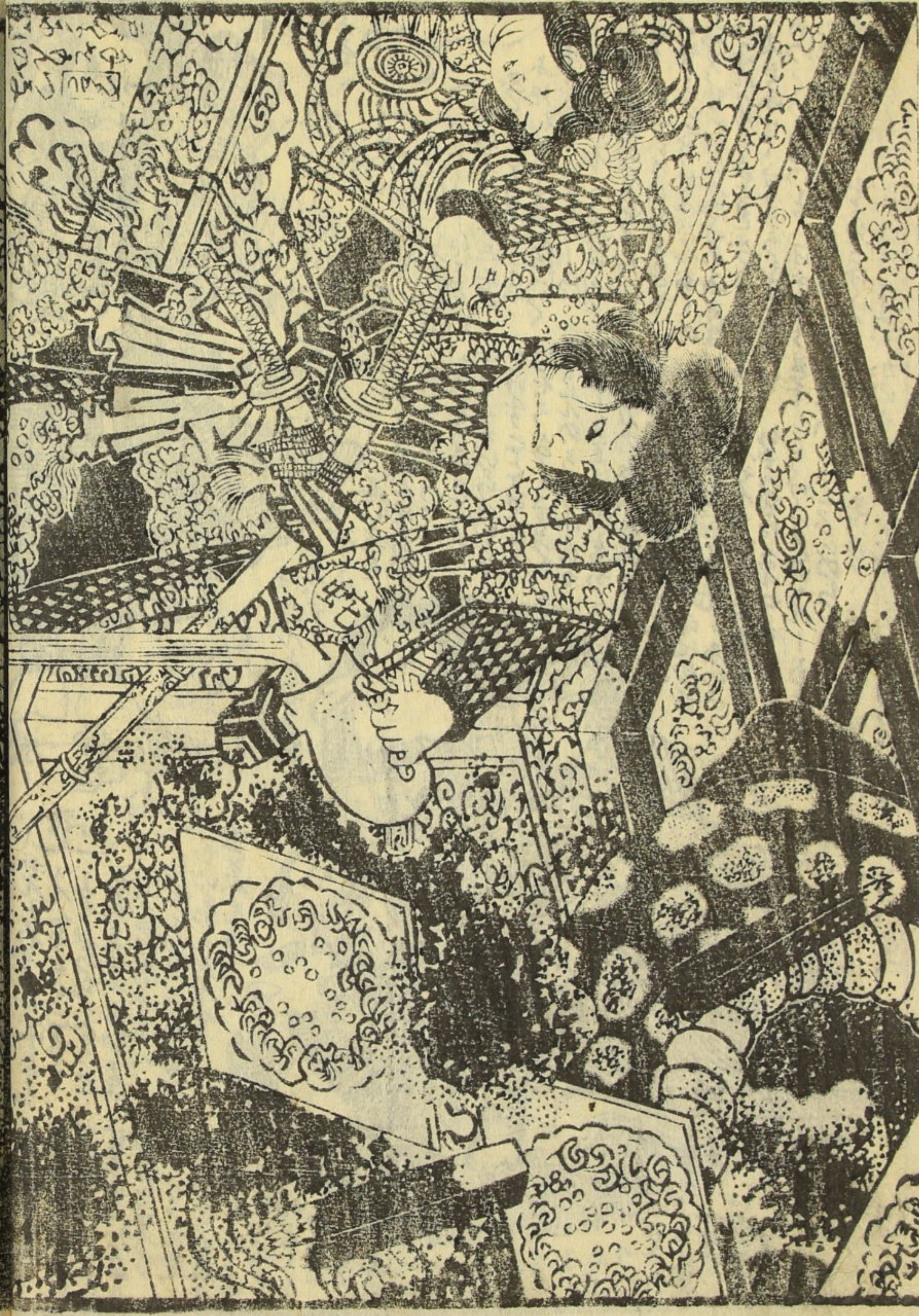
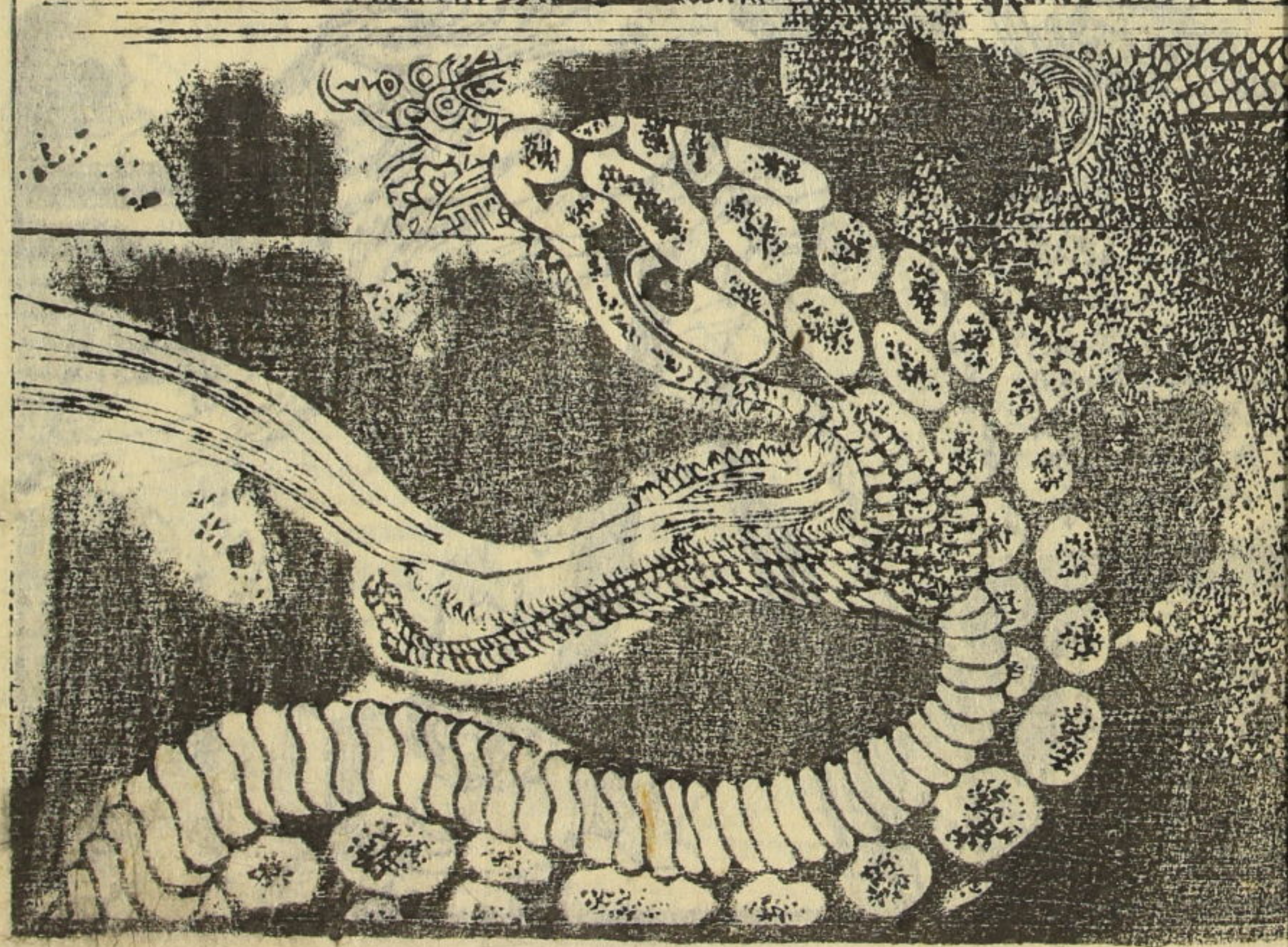
己酉廿二十九

己酉廿二十九

五

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian, located at the top of the left page. The text is arranged in several lines, with some characters appearing to be stylized or decorative.

Handwritten text in a cursive script, oriented vertically along the left margin of the page.



Handwritten text in a cursive script, oriented vertically along the right margin of the page.



白雲
七三九

元治二乙丑春新版



貞齋也三十

伊豫大擾... 不討... 丸の宝劔と得る

伊豫大擾... 不討... 丸の宝劔と得る

柳下亭種員稿
一惠齋芳幾画

女郎花五色石臺
初編より十編迄大尾

柳下亭種員作
一惠齋芳幾画

黄金水大盞盃
十六編十七編

為永春水作
一惠齋芳幾画

壽齋國貞画
諸國繁榮遊興双六

おもしろい遊戯... 双六の図

風俗淺間嶽
十三編十四編

柳下亭種員作
一惠齋芳幾画

貞婦いろは文庫
八編九編

柳煙亭種久作
同画

假名一休草紙
十五編十六編

同作同画

芝神明前
甘泉堂梓

一惠齋芳幾画

柳下亭種員作



下



見雷也

豪傑譚

三十九之

柳水亭著

一惠齋畫

甘泉堂



三

見

Multiple columns of vertical Japanese text surrounding the central illustration. The text is written in a cursive style and appears to be commentary or a narrative related to the scene depicted. The central illustration shows a man with a beard and a patterned robe, possibly a scholar or a noble, standing on a cloud-like base. He is holding a fan and looking towards the right. Behind him, another figure is partially visible, also on the cloud. The background is filled with more clouds and some faint, illegible text.

見雷也



元治二乙丑新春刊行

兒雷也豪傑譚

四十一編 柳下亭種員作
四十二編 一惠齋芳幾画

新編金瓶梅

初編 十編迄 大尾
曲亭馬琴作
一陽齋豐國画

陰戲場猿若真似

一陽齋豐國翁画
山閑人交來撰 年々出版

わが二宅居一年の程を越一二之の
之冊くつげ程を毎く名代役者の
せりあつらんよきあをりつめりまもか
もあつらんよきあをりつめりまもか

小女郎蜘蛛怨字環

初編より 大尾
曲亭馬琴作
一陽齋豐國画

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛版



芳幾画 種員稿

元治二乙丑

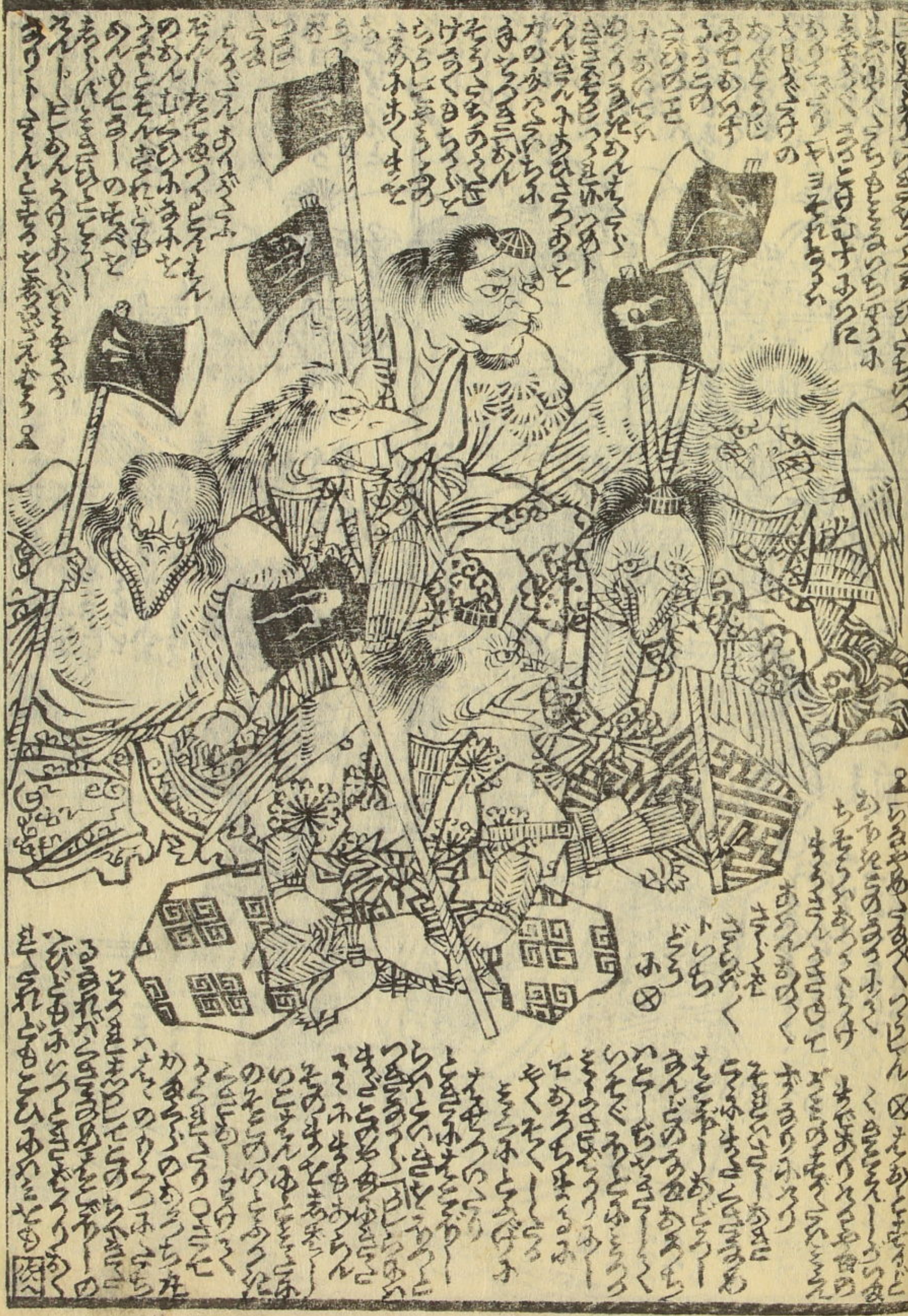
一惠齋芳幾画



下

見雷也豪條譚
編十四





此の如くは、
 戦場の騒ぎ、
 旗の影を、
 人々の声、
 剣の光、
 血の匂、
 死の影、
 生者の涙、
 戦場の果て、
 静寂の夜、
 残照の光、
 遠くを、
 風が吹く、
 雲が流る、
 月が照る、
 星が輝く、
 大地は、
 静かに、
 眠る。

此の如くは、
 戦場の騒ぎ、
 旗の影を、
 人々の声、
 剣の光、
 血の匂、
 死の影、
 生者の涙、
 戦場の果て、
 静寂の夜、
 残照の光、
 遠くを、
 風が吹く、
 雲が流る、
 月が照る、
 星が輝く、
 大地は、
 静かに、
 眠る。



此の如くは、
 戦場の騒ぎ、
 旗の影を、
 人々の声、
 剣の光、
 血の匂、
 死の影、
 生者の涙、
 戦場の果て、
 静寂の夜、
 残照の光、
 遠くを、
 風が吹く、
 雲が流る、
 月が照る、
 星が輝く、
 大地は、
 静かに、
 眠る。

此の如くは、
 戦場の騒ぎ、
 旗の影を、
 人々の声、
 剣の光、
 血の匂、
 死の影、
 生者の涙、
 戦場の果て、
 静寂の夜、
 残照の光、
 遠くを、
 風が吹く、
 雲が流る、
 月が照る、
 星が輝く、
 大地は、
 静かに、
 眠る。

此の如くは、

静寂の夜

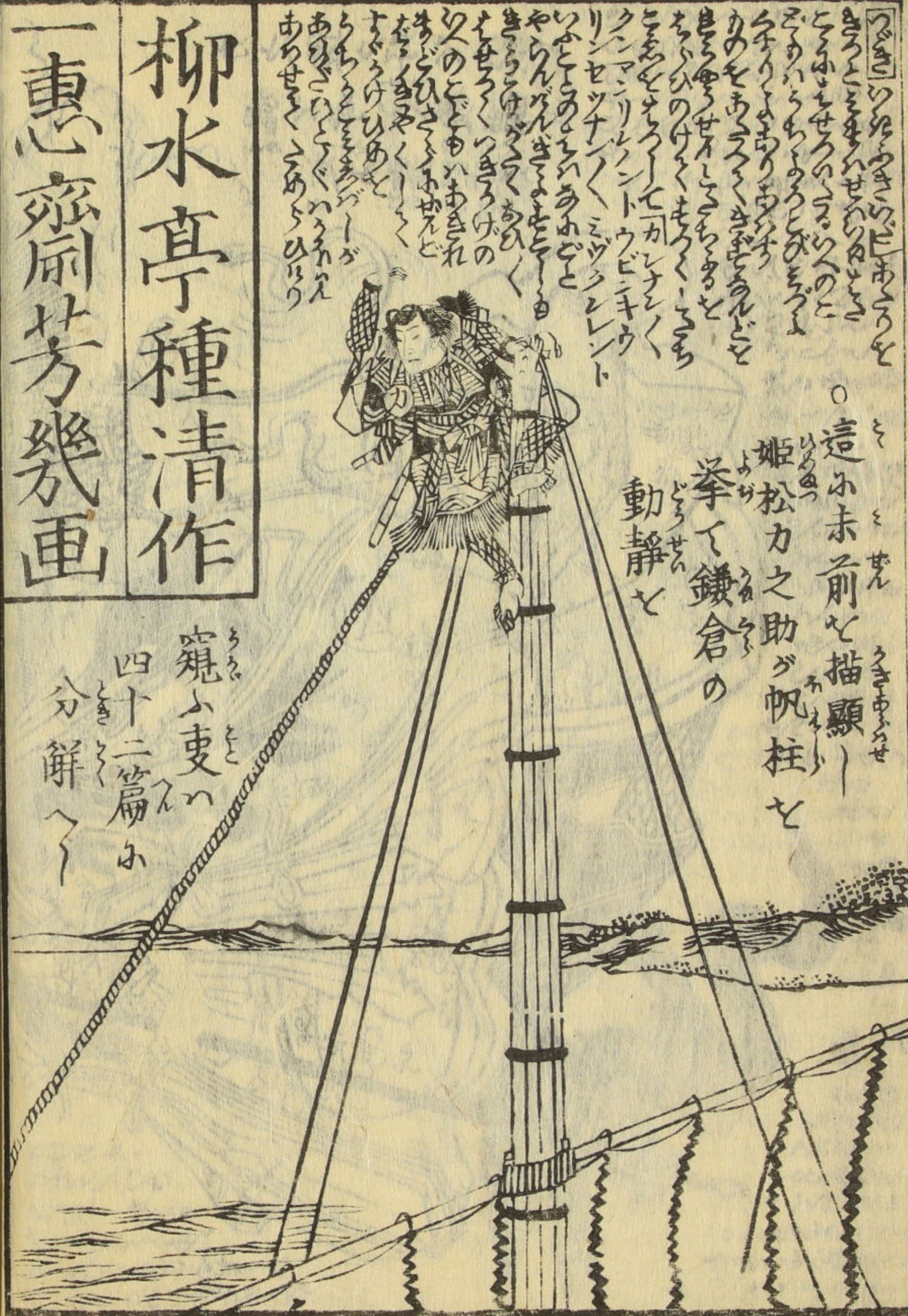


力之胆ヲ好之少
 堪之呼之後譚
 這小靈堅女

力之胆ヲ好之少
 堪之呼之後譚
 這小靈堅女
 此乃一
 畫也
 其
 畫
 之
 妙
 處
 在
 於
 其
 筆
 墨
 之
 精
 神
 與
 其
 構
 圖
 之
 巧
 妙
 實
 為
 一
 絕
 妙
 之
 作
 品
 也
 其
 畫
 中
 之
 人
 物
 皆
 有
 其
 獨
 特
 之
 神
 韻
 與
 其
 氣
 韻
 之
 貫
 注
 實
 為
 一
 絕
 妙
 之
 作
 品
 也
 其
 畫
 中
 之
 人
 物
 皆
 有
 其
 獨
 特
 之
 神
 韻
 與
 其
 氣
 韻
 之
 貫
 注
 實
 為
 一
 絕
 妙
 之
 作
 品
 也

柳水亭種清作
一惠心齋厨芳幾画

窺ふ支の
四十二篇小
分解



この未前を描顯
姫松力之助が帆柱を
挙て鎌倉の
動靜を

兒雷也豪傑譚

四十一編 柳下亭種員作
四十二編 一惠齋厨芳幾画

新編金瓶梅

初編の
十編迄
大尾
曲亭馬琴作
一陽齋豊國画

一陽齋豊國翁画
蔭戲場猿若真似

山閑人交來撰 年々出版

此書、二卷居一年の程を越一二の
二冊よりけ程を毎々名代役者の
せりあつたるまゝをとりつゝもかけ
まゝをのんぶごとく一覽の程を希

小女郎蜘蛛怨芋環

初編より
二巻まで
大尾
曲亭馬琴作
一陽齋厨芳画

芝神明前 甘泉堂 和泉屋市兵衛版



柳水亭種清作

神明前
泉市板

上





細手こぼてを以て結むすぶ
 鱗象うろこぞうの劍けんを
 邪術よまじゆと失うしなはる

鬼雷也真家傑譚 四拾編上

柳中多経清化 一五五多芳幾画

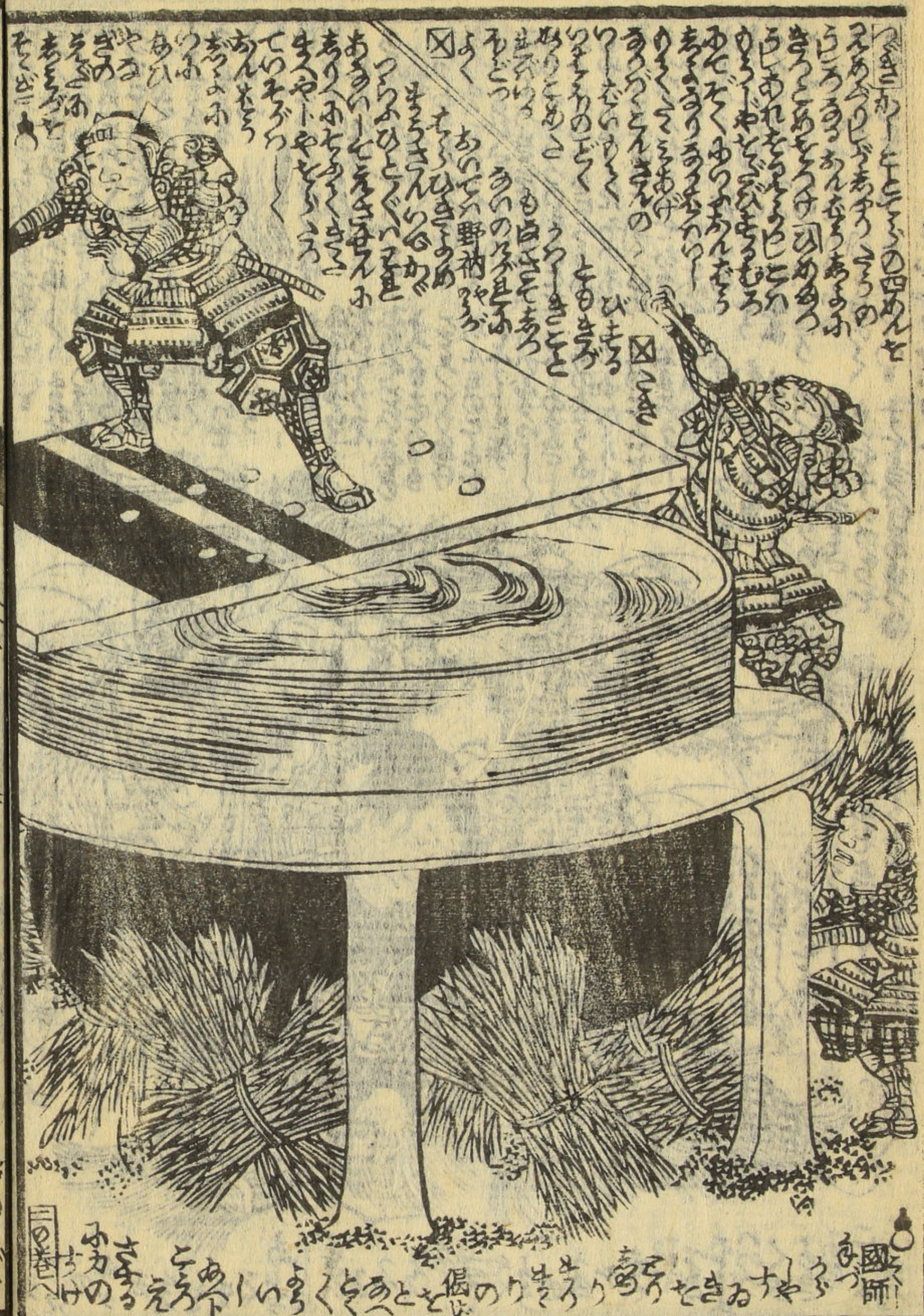
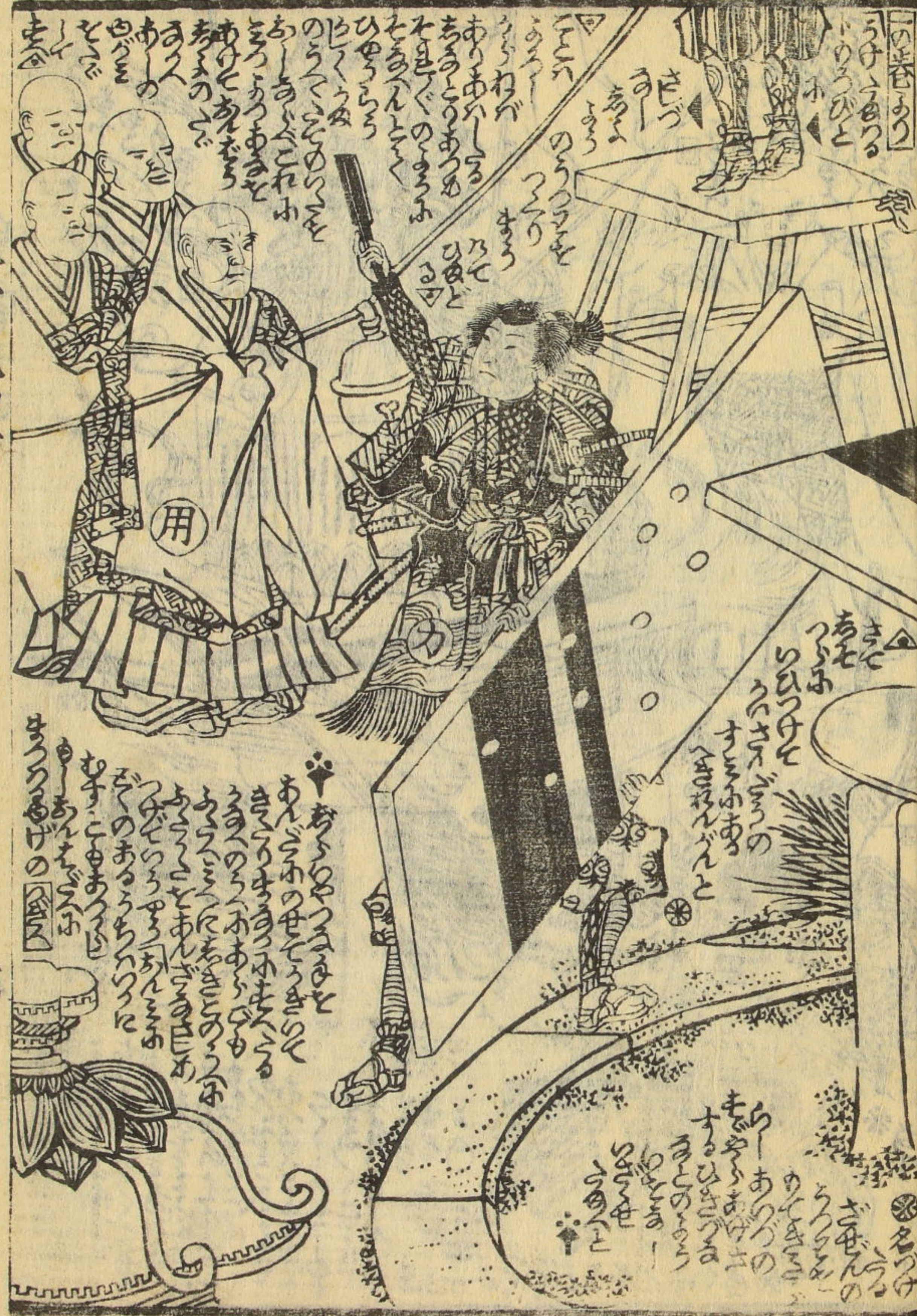
甘泉堂





志しき
 女を
 おぼしめし
 こそ
 せんら
 せ
 かしら





白川集巻十四

白川集巻十四

元治二乙丑新春新版

種清作
芳幾画



女郎花五色石臺
初編ヨリ十編迄大尾

柳下亭種員作
一惠齋芳幾画

黄金水大盡盃
十六編十七編

爲永春水作
一惠齋芳幾画

壽齋國貞画
諸國繁榮遊貞双六

おもしろいもの色紙
おもしろいもの色紙
おもしろいもの色紙

風俗浅間嶽
十三編十四編

柳下亭種員作
一惠齋芳幾画

忠臣貞婦いろは文庫
八編九編

柳煙亭種久作
同画

假名一休草紙
十五編十六編

同作同画

芝神明前
甘泉堂梓



見雷也豪傑譚四十編



種德化芳華畫
寸亦水重壽梓

馬魚

